資料紹介

「閑院宮載仁親王日記」大正十年（後半）翻刻

梶田明宏
内藤一成
白政晶子

「載仁親王日記」大正十年後半について

今回は、本紀要第六十五号に翻刻した「載仁親王日記」の大正十年前半に続き、同年の後半、すなわち七月から十二月までを翻刻した。「載仁親王日記」発見の経緯、載仁親王の経歴等については、すでに前回紹介したので、以下では今回翻刻分の内容を概観することとする。

三月三日、皇太子裕仁親王（昭和天皇）の海外御巡遊に随伴して横浜を出航した親王は、皇太子と共に英国訪問を終えて五月末にフランスに入り、ついでベルギー、オランダを訪問して再びフランスに戻り、視察を続けていた。

七月に入って、すでにフランス滞在も残すところわずかになっていたが、ランス付近の戦跡を視察し、また親王がかつて学んだサンシール陸軍士官学校、ソミュール騎兵学校を訪問、ソルボンヌ大学のラルノード教授よりフランスの政治組織についての講話を聞くなど、多忙な日が続いていた。その間、フランスとの別れを惜しむかのように、旧知との面会も頻繁であった。

皇太子と親王は、七月七日パリを出発、九日ツーロン港を出航してイタリアに向かい、十一日ナポリに到着、翌日ローマに入った。ローマにおいても駅にて国王に出迎えられ、英国やベルギー、オランダに劣らない民衆の熱烈な歓迎をうけ、王宮に宿泊した。ローマでは主として史蹟、美術館などを見学、十五日にはヴァチカン、すなわちローマ法王庁を訪問し、ベネディクト十五世と会見した。イタリアでは最後にポンペイを見学した後、十八日にナポリを出港し、帰航の途についた。

帰路のコースは往路とほぼ同じインド洋経由であったが、皇太子や親王が上陸したのは、往路では立ち寄らなかったアデンとカムラン湾のみであり、いずれも殷賑の地とは言いがたい。一方で、コロンボにおける注意人物の情報を得て（八月七日）、総督との儀礼交換を断っていることから（同九日）、依然として朝鮮人の危険を意識し、寄港地での上陸はできるだけ避け、危険がほとんどないと判断された場所のみが選ばれたのであろう。皇太子外遊の目的を達した以上、もはや儀礼交際よりも、無事に帰国することを最優先していたことが窺える。その間、大阪商船シャム丸遭難の無線に接し、鹿島が救助に向かったり、モンスーンに遭遇して鹿島の水兵一名が波にさらわれ行方不明となるなどの事件にも遭遇した。

一方日本では、外遊中の報道により皇太子の人気が高まり、帰朝の歓迎を大々的に行う準備が始まっていた。そのため、八月七日には、海軍省より横

浜到着を九月三日としたいとの要請があったことが記されている。

艦隊が日本に近づくと、電信によってもたらされたと思われる、国内外のニュースを日記に多く認めるようになる。日本を取り巻く諸情勢を確認して、旅行気分を切り替えようとしたのだろう。

九月三日の皇太子帰朝は、官民挙っての大歓迎をもって迎えられた。皇太子の随伴役であった載仁親王もまたその歓迎の渦に巻き込まれ、帰国後しばらくは、皇太子帰朝歓迎の諸行事に親王も頻繁に列席し、親王個人の歓迎行事も含めて慌ただしい様子が窺える。皇太子外遊は大成功とされ、親王には九月二十四日にそれを嘉賞する勅語とともに菊花章頸飾を授けられ、他に御紋散料紙文庫硯箱と金五万円を拝領した。

また、親王にとっては、外遊時の皇太子の様子を報告することが、帰朝後の責務であった。具体的に親王がどのような内容を伝えたかは判らないが、首相の原敬、宮内大臣の牧野伸顕はじめ、元老の山県有朋・松方正義・西園寺公望、東宮大夫浜尾新、皇族筆頭の伏見宮貞愛親王などと面会して報告していることが確認できる。九月二十七日には皇后に拝謁し、一時間半にわたり言上している。

当時、皇太子の摂政就任のための準備は着実に進められており、御渡欧中の模様の報告は、そのことと無関係では無く、親王もその動きがあることを早い段階で耳にしたと思われるが、日記の中では、機密に属するためか直接それと関係すると思われる記事は直前までほとんど見られない。九月二十八日と十月二十二日に、宮内大臣より天皇の「御容体書」に関する話があったことが見られる程度である。十一月二十一日以降になって、摂政設置に関する皇族の会合、皇族会議の準備に関する記事が見られるようになる。そして、「摂政」の文字が最初に記されるのは、摂政設置前日の十一月二十四日で、「午前十時過き参内。伏見宮と共に陛下に拝謁して、皇太子の摂政に付き奏問せり」と記される。

そもそも、憲法、皇室典範に摂政設置に関する条文はあるものの、具体的な手続きについては定まった規定はなかった。皇室典範では「天皇久キニ亙ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族会議及枢密顧問ノ議ヲ経テ摂政ヲ置ク」（第十九条第二項）と規定されるのみである。実際にそのとき大正天皇に、自ら判断して裁可する能力があったかどうかは判らないが、形式的にせよ、また法的に必要な手続きではないにせよ、摂政設置の前日に皇族の代表たる貞愛親王と載仁親王が、天皇に拝謁して摂政設置に関する奏上をしたことは、この日記で初めて明らかになったことで、「昭和天皇実録」にもこのことが反映されている。

一方で九月三日の帰朝以降は、親王の生活が皇族軍人としての日常に次第に戻っていく様子も窺うことができる。家族関係としては、士官候補生となることが予定された嗣子春仁王の兵科の選択が課題となっていたが、親王の洋行中、春仁王の輔導監督役をつとめていた松川敏胤との相談にて、載仁親王と同じ騎兵に進むことが決まった。日記の十二月三十一日の最後には、親王は「本年も無事に終る」と大書した。

載仁親王は、なぜかこの日記を綴った博文館大正十年当用日記帳の補遺欄、住所人名録欄を利用して、大正九年一年分の日記を記している。それ以外の年の親王の日記は見つかっておらず、存在するのかしないのかも判っていない。皇族として、軍人として重要な役割を演じた人物であるだけに、もしこれ以外の日記も現存するなら、発見され、公にされることを願ってやまない。

最後に、前回及び今回の『載仁親王日記』の翻刻に当たり、利用と掲載をご許可いただいた原本所有者の神奈川県立小田原高等学校同窓会及び関係者の方々へ、謹んで感謝の意を表する次第である。

「載仁親王日記」大正十年七月～十二月

【凡例】

一、この史料は神奈川県立小田原高等学校同窓会が所蔵する閑院宮載仁親王の日記のうち、博文館の当用日記に記された大正十年七月一日から十二月三十一日までを翻刻するものである。

一、挿入した写真は同じく同会所蔵の閑院純仁（春仁王）旧蔵アルバム所収のものである。

一、漢字は原則として常用字体を用いた。

一、原文の仮名は片仮名であるが、外国人名・地名等が頻出するため、これらを除き一般の仮名は平仮名に変えた。

一、句読点・並列点は適宜補った。

一、日記帳の「予記」欄などに記された情報は、日付・曜日の下に記した。

一、註は、傍注と各日毎の註を併用した。傍注は（　　）にて表記した。日毎の註は＊に番号を振った。その他本文中内の註記は「　」とした。

一、前半の紹介に際して解説、あるいは註を施した人物・事項に関しては註記を省略した箇所もある。

一、外国人名・地名など現在の一般的な発音表記と大きく異なる場合は、註記した。

一、親王が誤って覚え込んでいると思われる漢字は、正しい漢字に置き換えた。（例「香島」→「鹿島」など）

一、右のほか、文中の名辞・表現・評価などにおいては不適切な表現もあるかもしれないが、歴史資料であることを考慮し、すべて原文のままでとした。

七月一日　金曜　晴　巴里滞在　サンシール兵学校、ラ・ブールジュ飛行場

午前五時半起床、六時半朝食。

午前八時より自動車にて皇太子と共にサンシール兵学校*に行き、歩兵、騎兵の諸運動。歩兵では一分隊の編成、其中に機関銃、手ナゲ弾手、其他色々ある。校内諸室を見る。前年余の在りしときと同しく、寝室に各人に隔（へだて）てを入れしのみにて大なる変化なし。学校長はタナン少将なり。

午后は巴里北東のラブールジュに行、民間飛行場に行く。其時英国倫敦より到着せし一飛行機あり。乗客は十二、三名あり。男女交りあり。又日本の買ひたる大方（ママ）飛行機を見る。巴、倫間の飛行機と同し形、大さなり。客坐の代りに爆弾用機械を装置す。次に陸軍第三十四聯隊飛行機隊を見る。偵察、戦闘、攻撃等に分れ各飛行して見せたり。

＊サン・シール陸軍士官学校。かつて載仁親王が在籍した

七月二日　土曜　晴　巴里　滞在

午前六時起床、七時半朝食。

ローラン、リシャール洋服屋に行く。
零時三十分にグランメーゾン氏の午餐に行く、同氏はサンシールの同期生にして、十九名の人員中余と共に九名の同期生を集めての食事。午后四時より*ラルノード博士の講話を聞く。La constitution fransoise.
前年ソーミュル学校に余と共にありし軍医ドクトル、ラブネス氏来り、面会。Docteur Ravenes

＊Ferdinand Larnaude パリ大学法学部長。フランスの政治組織につき皇太子に講義

七月三日　日曜　晴　巴里滞在　レンス附近戦場実視

午前五時半起床、六時半朝食できず。七時過きに食す。
午前七時五十分ガール*1・ド・レストより皇太子と共に出発、フランシー（フランシェ・デペレー）・デペレー元帥同行す。レンス*2附近より其北方地方の戦場を実視す。レンスにてはシャンパン*3酒庫に入り、見物す。三十メートルの深にて千三百万のシャンパンあると云ふ。

＊1Gare de lEst パリ東駅　＊2シャンパーニュ地方の都市ランス　＊3ポムリー醸造所の地下酒庫

七月四日　月曜　晴　巴里滞在　ソーミュール騎兵学校行

午前五時半起床、六時半朝食
午前八時五十五分ガール*・ド・ケードルセイ駅より乗車にてソーミュール騎兵学校へ皇太子と行く。午后一時二十二分着。直に校内に行き生徒並に教官の馬術、タンク、厩。夫れより、ベーリ競馬場に行き、生徒並に校附下士の馬術演習を見る。校長官邸に帰り茶をのみ、午后六時二十七分発にて巴里に帰る。十時五十五分なり。

＊Gare du Quai d'Orsay オルセー河岸駅

七月五日　火曜　晴　巴里滞在

午前六時起床、七時朝食。
午前八時半より久村*1砲兵少佐の講話（独国の景況）を聞く。珍田伯来る。午后四時過きより下水*2工事を見る。午后八時大使館に於て皇太子の仏人ガリ御招に列す。

＊1久村種樹（陸軍科学研究所員）　＊2パリの下水道

七月六日　水曜　晴　巴里滞在　東京へ手紙第十四報

午前六時起床、七時半朝食。
散髪。
午后三時三十分に大統領に面会して出発に付き、暇乞に行く。八時大使館にて日本人のみの食事。皇太子の催なり。

七月七日　木曜　小雨（巴里）　巴里午前八時五十五分出発　ツーロン着午后十時

午前五時起床、七時朝食。
午前八時五十五分ガール*・ド・リヨン駅出発にてツーロンに行く。本日を以て巴里を出発す。其時より小雨始まる。但し南方に行につれ、雨止みたり。「リヨン」にては晴、暑し。当地にて同期生のブレガール中将騎兵師団長、カラー大佐に面会す。ティーヨン少将もリヨンに在るも本日は駅に来らず。午后十時ツーロン軍港工廠内に下車し、直に小汽械（艇）にて軍艦香取に乗る。

＊Gare de Lyon パリ・リヨン駅

七月八日　金曜　曇　一時雷鳴あり、雨降る。ツーロン滞在　軍艦にあり。附近自動車にて終日散歩

午前六時起床、七時朝食。
午前八時より艦を出で上陸、工廠内自動車にて鎮守府司令長官並にスー・プレヘーと共に運動に行く。午餐は（アキマ）*1と申ところにて為し、終日約二百

キロ―海岸は眺望よく、山には松多く稍内地の地形の如きありさまなり。帰途仏国の分配をうけたる独のチェッペリン[*2]を見る。構造甚だ巧なる者なり。午后八時艦内にて皇太子の晩餐会に列す。

＊1ボーヴァロンのゴルフ・オテル　＊2ツェッペリン飛行船

七月九日　土曜　晴　ツーロン出港　正午伊国に向ふ

午前六時起床、七時朝食。

午前十時半鎮守府司令長官以下、石井大使等来り、別れを申す。接伴員も来りたり。

正午ツーロン港出発す。海上稍平穏にして稍風あり。涼しきを感じたり。大使以下軍港出口にて送る。仏国駆逐艦四艘約二時間同行し、其后礼砲を打ち帰る。

七月十日　日曜　曇稍晴　航海

午前六時起床、七時朝食。

海上平穏。午前七時過き、コルス（コルシカ）とサルデニヤの間を通過。其他異状なし。

七月十一日　月曜　曇　午前八時半　ナープル港着

午前六時起床、七時朝食。

午前六時半過きより伊国駆逐艦二艘両舷に来り、同行す。七時半頃水上飛行機三機来る。八時半よりナープル（ナポリ）港に入る。伊国軍艦の傍に碇泊す。落合大使以下来る。アオス[*1]皇族の子[*2]（アキママ）来る。軍港鎮守府司令長官以下数名来る。午餐后伊国駆逐艦にてカプレー（カプリ）島に行き穴[*3]に入る。太陽の光線の為め甚たきれいなり。

接伴員［以下欠］

＊1アオスタ公（第二代）。国王ヴィットーリオ・エマヌエーレ三世の従弟　＊2アオスタ公の二男スポレート公。後の第四代アオスタ公　＊3Grotta Azzurra（青の洞窟）

七月十二日　火曜　晴　暑し　ナープル出発　ローマ着　滞在

午前四時起床、五時朝食。

午前六時十分香取出発。同六時二十分軍港内にて汽車に乗り直に出発、ローマに向ふ。七時二十分ナープル駅出発、汽車の沿道は耕作地又は牧場なり。二、三の駅に停車して午前十一時二十分ローマ着、国王陛下同駅にありて皇太子を迎へらる。皇太子は陛下と同列馬車にて王宮に到着。

余はアヲスト皇族と同車。宮内大臣も同車す。市中は駅より王宮迄両側共に軍隊にて警戒、堵列す。其后に国民群集して歓迎す。途中にて市長歓迎を申上く。

宮廷に到着后、非公式午餐。正装のまゝ。約四十人。午后四時半よりパンテヲン、先帝の墓、市中見物、動物園等なり。午后八時半公式大宴会約八十人。陛下より鋼の置物を拝領す。

七月十三日　水曜　晴　暑し　ローマ滞在

午前六時起床、七時半朝食。

午前九時半より陛下と共に皇太子、余はローマ附近軍隊のカルーゼル[*1]を見る。各兵種の運動等ありたり。十一時過き帰る。正午陛下以下と非公式午餐あり。午后は三ヶ所に行き各タブロー[*2]等を見る。晩餐は大使館にて皇太子催にて、陛下も御出席あり。其后大使の催の夜会あり。十一時過き帰る。

＊1Carrousel（仏）軍隊のパレード場の意　ウンベルト公園のシエナ広場とする記録あり

＊2tableau（仏）絵画

七月十四日　木曜　晴　暑し　ローマ滞在

午前六時起床、七時朝食。

午前八時半より、Colosseo[*1] Monte Palatino[*2] カタコンフ[*3]等を見物す。甚た暑し。正午陛下以下と午餐あり。午后五時市長の歓迎会。八時宮殿。陛下と食事。食后宮殿を拝見す。甚た美なり。

陛下並にアオスト親王の写真を貰ふ。余の写真を希望せらる。

＊1コロッセオ（円形闘技場）　＊2パラティーノの丘　＊3カタコンベ（地下墓所）

七月十五日　金曜　晴　暑　ローマ滞在

六時起床、七時半朝食。

午前九時半よりクーヴアン[*1]二ヶ所を見る。宮殿午餐。午后三時より正装にて大使館に行き、四時法王[*2]に謁見の為め大使館を出る。正式にて皇太子を迎へ面会す。モザイック[*3]を貰ふ。又供奉員には勲章を贈る。八時宮殿食事。陛下出席。食后厩を見る。

＊1couvent（仏）修道院　サン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂とサン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂　＊2ローマ教皇ベネディクト十五世　＊3モザイク画

七月十六日　土曜　晴　暑し　ローマ滞在

午前六時起床、七時朝食。

午前九時半よりバチカン博物館見物。正午大使館午餐。午后三時ローマ滞在のチェコスロバック[*1]大統領来り、面会。但し非公式なものなり。四時より再ひバチカン博物会に行きモザイックの製作を見る。其他のタブロー等を見る。センポール[*2]の上に昇る。宮殿に帰り八時より国王陛下と御食事。其后活動写真（伊軍の者）。

＊1チェコスロバキア大統領トマーシュ・マサリク　＊2サン・ピエトロ大聖堂

七月十七日　日曜　晴　暑し　ローマ出発、ナープル着

午前五時起床、六時朝食。

午前七時三十分発汽車にて伊国ナープルに向ふ。正午ナープル駅着。公式馬車にて市中を通過す。両側（軍隊各兵種あり、高射砲もあり）堵列す。人民も多く、各窓よりも見物して手を打て歓迎す。零時半軍艦に帰り、午后一時半司令長官の官邸の午餐会に出席。アオスト親王妃及其第二王子（海軍少尉）も有り。水族館[*]見物。自動車にて海岸運動。六時帰り晩餐会、軍艦上にて八時より。司令長官以下約三十名。十時より伊国長官の夜会に列席して正子頃帰る。

アオスト親王に贈りしボンボニエーに皇太子、余の名を記したるボンボニエーを妃に贈る為め、彼れよりあつかり持ち来る。其妃に贈れり。

＊ナポリ臨海実験所の水族館

七月十八日　月曜　晴　暑し　午前ポンペイ見物、甚暑し　ナープル出港、復航海第一日

午前五時起床、六時朝食。

午前八時半より伊駆逐艦にてポンペイに行く。九時半着。自動車にて約十五分にてポンペイに着し、十時半過き迄見物。十一時半香取に帰り、伊国司令長官、接伴員等と午餐を共にし、又伊国司令長官夫人以下六、七名も日本食の食事に招かれ軍艦に来る。

午后二時半ナープル港出帆、帰国につく。本日を以て今回の皇太子欧州旅行を終る。

接伴員海軍少将（アキママ）にもたらせ、余の写真を陛下及アオスト親王に贈る。

七月十九日　火曜　晴　南風あり　今朝より稍暑気少し　復航海第二日

午前四時半に起床してメシナ海峡を見る。

五時半入浴、七時朝食す。散髪す。

海上平穏にして南風あり。暑少なくして昨日より大にしのぎ安し。

七月二十日　水曜　晴　西風あり　風の為めか暑気稍少し　復航海第三日　平穏

午前六時起床、七時朝食。

異状なく西風の為めヲイテ*にて稍能く進むと云ふ。午后四時過ぎクリート（クレタ）島の南方を航海す。

皇太子殿下昨日より海水浴をなさる。

＊追風（おいて）

七月二十一日　木曜　晴　北西の風　稍暑気少し　復航海第四日　波あれとも北西の風にてオイテにて平穏なり

午前六時起床、七時朝食。

何にも見る物なく平穏なり。北西の風にして稍波あれとも、オイテなる故に船動かず。

昨夕より三十分時計を速める。

七月二十二日　金曜　晴　北西の風にて暑気少し　復航海第五日　ポルサイト着、一泊

午前五時半起床、六時半朝食。

午前九時ポルサイド（ポートサイド）着、礼砲の交換あり。港に入るやシュルタ（スルタン）使として侍従長、アレンビ元帥使、英国領事其他数名日本領事と来る。小栗司令長官は本艦にうつり、鹿島はポルサイドに泊らずしてカナールに入り、今夜は湖水に一泊して明夕スエズに先着する予定なり。

本日は終日北西の風の為め稍暑少く、思ひしより可なりし。

七月二十三日　土曜　晴　北西の風にて稍暑気少きも上甲板にては暑し　復航海第六日　ポルサイド出発、カナル内イスマリヤ湖

午前五時半起床、六時半朝食。

午前九時香取ポルサイトを出港してカナルに入る。出発前に日本領事益子*1来り。又竹下*2海軍中将は本日供奉員より出で再ひ仏国に行く。又英軍隊皇太子に敬礼の為め来る。午前中は無事カナルを通過するも、午后二時過き左舷に於て坐礁す。約一時半間にして再ひ前進せり。故に（アキママ）湖に行く予定を変更してイスマリヤ湖に泊る。午后六時半なり。

本日は北西の風后ろより来り、稍暑気少きも、日光強き為め上甲板は稍暑し。但し沙は来らず。

＊1益子斎造　＊2竹下勇

七月二十四日　日曜　晴　北西の風にて稍暑気減じたるも日中暑し　イスマリヤ発スエズ着　復航海第七日

午前五時半起床、六時半朝食。

軍艦は午前五時イスマリヤ出港にて、無事午后一時スエズ着。香取は石炭つみに付き、鹿島に行く。午后二時過きより。其前に日本領事益子及英国領事来る。鹿島にて夕食。講談、花火あり。午后九時過き香取に帰る。

午后八時半頃因幡丸日本に向け出発（スエズ）。軍艦附近に来り、万歳を叫ふ。八月二十八、九日頃着と云ふ。軍艦より速し。

七月二十五日　月曜　晴　暑し　スエズ滞在

午前五時半起床、六時半朝食。

早朝より石炭つみ、午前九時半より鹿島に行き、午餐后港外にて爆薬にて魚とりをなす。

夕食香取活動写真。コロンボーよりポートマス迄の分なり。

七月二十六日　火曜　晴　暑し　但し北西の風にて稍涼し　スエズ出港午前五時　復航海第八日

午前五時半起床、六時半朝食。

午前五時に艦隊は出港す。海上平穏にして北西の風にて稍涼しきを感じたり。多くの船に行あう。

七月二十七日　水曜　晴　暑し、但し西北風あり　海上平穏　復航海第九日

午前五時半起床、六時半朝食。

海上平穏なれとも暑気稍強く、風西北、又は西南より来り湿気を増す。夜半始めて甚た暑く褌*にてねる。

＊褌は褌の俗字

七月二十八日　木曜　晴　暑気強し、但し西南風あり　復航海第十日　海上稍波高し

午前五時半起床、六時半朝食。

湿気如わり暑気甚たしく、空気甚だをもく、いきぐるしきなり。午前十一時頃より波稍高くなり、砲門をしめる。

余の室は右舷なる故にナープル出港以来日本に着する迄午后に日あたり、為めに鉄板やけて、夜になりても稍あつく、故に夜半十二時過にならでは稍涼しくならざるなり。為めに寝るに稍コンナン。

七月二十九日　金曜　晴　暑し　湿気昨日より午后になり少し　復航海第十一日

午前五時半起床、六時半朝食。

海上平穏なれとも昨夜は湿気多く、為めに空気重く、まるて蒸気の中にある如きでした。寝につきても汗大に出て、甚た寝ぐるしかりし。午前二時小便に行き、窓を見ると湿気蒸気の如く顔をうつ。甚た不ゆかいなりし。

時計三十分速める。

七月三十日　土曜　晴　午前中は暑気稍強かりしも午后より稍涼し　復航海第十二日　アデン港外に一泊す

午前五時半起床、六時半朝食。

午前五時頃バブデルマンデル海峡*1を通過。午后零時五十分頃アデン港外に達し、泊る。明早朝（五時）より港内に行き石炭積みを為す。

昨夜は一昨夜より大に暑くなく、能く寝たり。今朝午前八時四十五分より遙*2拝式を施行す。正午頃よりムーソン（モンスーン）の余波ならんか稍涼しくなり、上甲板にては稍涼しすぎるぐらい。波高し。

香取艦長より紀念として紋附の時計掛を貰ふ。

＊1バブ・エル・マンデブ海峡　アラビア半島南西部　＊2明治天皇例祭

七月三十一日　日曜　晴　稍暑気少きも港外よりも暑し　アデン港内滞在　午前六時入港す

午前五時半起床、六時半朝食。

艦隊は午前六時迄にアデン港内に入り碇泊す。午前八時半スコット少将、コンミサール外幕僚四名来り、皇太子及余に面会。軍艦は石炭積みを為す。午后二時迄。午后五時上陸してアデン貯水池、但し水なしを見に行く。南風稍強く岩山に熱したる空気来り、面に砂を飛す。土人は甚たきたなき者多し。帰途官邸に行き、少憩の后軍艦に帰る。午后六時五十分なり。官邸は突出したる高地故に風甚た涼し。其他の道路又は村落にては甚た暑し。九月が一番暑き月と云ふことなり。昨日、今日も色々と商人来り。魚、だ鳥の毛等を売る。

アデンに日本人墓碑あり。海軍将校以下の者、山本大佐御使し、長官以下拝に行く。

＊commissaire（仏）弁務官

八月一日　月曜　晴　海上波稍高し　暑気あれとも風の為稍しのぎよし　復航海第十三日　アデン出港午前十一時

午前五時半起床、六時半朝食。

艦隊は午前六時よりアデン港を出でてコロンボーに向ふ。今朝鹿島より無線にて今朝一時頃シャム丸（大阪商船）四五八三トン亜弗利加の東北端グアー*ダフイ岬に坐礁すとの報あり。但し英船其附近通過中なりし為援助に行きしと云ふ。六月十日神戸出港せりと云ふ。午后八時小栗長官より無線にて、シャム丸救助に鹿島を急行せしむと。又小栗長官は本艦に乗りうつりたきも

海上あらき為め中止して、来る五日本艦に合すと云ふ。夕食后八時四十分頃鹿島左方に進路を取りしを見る。明日正午過き遭難地に着と申ことなり。

＊ Cape Guardafui アフリカ大陸北東端の岬

八月二日　火曜　晴　午前中は波稍静なりしも午后より高く、夕刻より一層高く、艦動揺す　復航海第十四日

午前六時起床、七時朝食。

シャム丸は船員皆な五十余名鹿島に収容される。但し船は抛棄するのやむを得ざりしと云ふ。

明朝よりスコトラ北端をはなれ、西南信風に遭遇するから今夕より窓其他の入口の締方をやる。波は今夕より右舷余の室の窓に上る。

午后六時に追悼式あり。往航のとき不時の災難に殉じたる二水兵の水葬亜丁(アデン)湾にありし為めなり（香取に於て）。

八月三日　水曜　晴　海上昨日より西南風波高し。甲板上を洗ふ　復航海第十五日

午前六時起床、七時朝食。

鹿島救助の任務を終り今朝香取に合したり。

昨夜波高かりし為め、午前一時より三時の間に於て舵とり困難となりたり。

午后三時四十分頃鹿島の一水兵作業中波の為めさわられ、海中に落し不明となる。前進を中止して捜索せしも、救ひ上ることできず、溺死となる。実に不幸者なり。

皇太子艦橋の御室にて食事、今夜も同所にて御寝と云ふ。

八月四日　木曜　晴　午后より曇　海上波高し　西南方向なり　波上る　復航海第十六日

午前六時起床、七時朝食。

特筆すべき件なきも、海上風波昨日の如く高く、屢ば海水甲板上に来り、出ること甚た危険なり。故に終日余の室にありたり。

皇太子は艦橋にあり。

八月五日　金曜　曇、晴　昨日より稍風波ひくくなる　復航海第十七日

午前六時起床、七時朝食。

特筆すべき件なく、昼も晩も余の室にて食事す。

来る九日正午頃コロンボーに着と申ことなり。風と波の為め速力を増せしによるならん。

午后四時半過き少時間甲板上にありしに、波の為め未た稍困難なりし。

二日晩より三日、四日、五日朝迄稍風強かりし。

八月六日　土曜　晴　波稍静になる、窓を開く　復航海第十八日

午前六時起床、七時朝食。

二日来以始めて午前八時頃より甲板に上る。風稍ありて少時間にして明鏡くもり海水の為めべとつき、唇からくなる。

本日も夕刻に追悼式あり。夫れは往航の時此附近に於て鹿島の水葬せし位置の為め、香取艦上にて行ひたり。

夕食后活動写真ありたり。

八月七日　日曜　晴　午前四時過き驟雨あり、六時止み晴天となる　西南風の為め稍涼し　復航海第十九日

午前六時起床、七時朝食。

海軍省より司令官に、来月三日に横浜御着港にしたし、既に四日と公表せし故、と申ことなり。あまり速くては公表した故こまると云ふ。又海軍次官より内地よりコロンボーへ注意人物出張せりと云ふ。日本附近海上にて一大暴風雨御着の前にあると云ふ如き電報来る。

海上平穏なり。

八月八日　月曜　晴　夕刻驟雨、暑気西南風の為稍少し、海上平穏　復航海第二十日

午前六時起床、七時朝食。
特筆すべき件なし。

八月九日　火曜　晴　西南風の為め稍涼し　海上平穏　コロンボー着午前十時過

午前六時起床、七時朝食。
海上平穏にして午前十時過きコロンボー港に入る。総督の訪問はことわり、印度艦隊司令長官（アキママ）*の訪問を皇太子及余はうけたり。
石炭つみ。夕食には和食にて総督夫婦始め十二名を香取に招き皇太子の食事。
本日東京より六月廿二日付の智恵子の手紙を受取とる。安藤家及黒田家にて妊娠と申ことなり。

*東インド艦隊司令官 Hugh H. D. Tothill

八月十日　木曜　晴　時々驟雨、西南風あり　コロンボー滞在　上陸なし

午前六時起床、七時昼食。
今回は皇太子上陸なし。午后一時鹿島に於ける午餐に皇太子と行く。又夕食は香取にて午后八時晩餐、総督始め約三十人。
石炭つみ。

八月十一日　木曜　晴　時々驟雨　午后五時半コロンボー出港

午前六時起床、同七時朝食。
*縫田総領事よりセーロン茶を貰ふ。
今回は前回より風あり。稍涼と云ふ。但し空気重し。港を出ると西風の為め波高く、軍艦再動揺す。

*縫田栄四郎（在孟買領事）

八月十二日　金曜　晴稍曇　海上平穏となる　午后より西南風稍強　復航海第二十一日

午前六時起床、七時朝食。
昨夜の中に方向を東にとる。西南風漸次強くなり、午后より波高まり、風の為め稍涼しかりし。
夕刻日本汽船に遭遇す。
本日より四時の茶なくなり、夕食は六時半となる。

八月十三日　土曜　晴　西南風にて稍暑気少し　復航海第二十二日

午前六時起床、七時朝食。
海上稍波あり。特筆すべき件なし。
三十分時計を進める。

八月十四日　日曜　晴　海上平穏　暑気風の為稍少し　復航海第二十三日

起床六時、朝食七時。
過日コロンボー滞在中に脳脊髄マクエン水兵中に一名決定せしより、艦全体の人員の身体験査。即口中より若干のつばをとり分せきせり。
夕食后鹿島にて花火を為せり。

八月十五日　月曜　晴　海上平穏　復航海第二十四日

起床六時、朝食七時。
特筆すべき件なきも、午后五時スマタラ（スマトラ）北端を見始める。海峡に入るなり。
月甚た良し。
夕食は午后六時三十分となる。
三十分時計を進める。

八月十六日　火曜　晴稍曇　時々驟雨あり　海上平穏　復航海第二十五日

六時起床、七時朝食。
特筆すべき件なきも、海上平穏にして海峡通過中なり。両舷に島及陸地を見る。

正午の食事、六時の夕食となる。人員も今夕より御陪食は四人に減じたり。

八月十七日　水曜　晴　海上平穏なり　風殆んとなし　稍暑し　復航海第二十六日

六時起床、七時朝食。

特筆すべき件なきも陸地を見る。又魚船を見る。日本船に行ちがう。時計三十分進む。

八月十八日　木曜　晴時驟雨　海上平穏　復航海第二十七日　午前十時シンガポール仮泊　午后二時出港す

起床六時、七時朝食。

午前十時シンガポール港外に仮泊して糧食、水、氷等を入れる。其時シンガポール総督代理として民政長官[*1]午前十一時来艦。又十一時五十分に陸軍司令官[*2]（往きに見たる人なり）来る。領事代理も来る。又数多の舟にて日本人代表者数多来る。

午后二時出発してカムランに向ふ。

＊1民政長官フレデリック・シートン・ジェームズ　＊2陸軍少将ジョン・ファウラ

八月十九日　金曜　曇　晴　海上平穏なり　復航海第二十八日

起床六時、朝食七時。

特筆すべき件なきも［以下欠］

日本方向より来りたる船、午前五時頃無線にて御機伺（ママ）の電報来る。

八月二十日　土曜　晴　海上平穏　稍暑し　復航海第二十九日

起床、朝食は前日と同し。

特筆すべき件なし。

八月二十一日　日曜　晴　早朝驟雨　復航海第三十日　正午過カムラン着

起床、食事時間同し。

予定の如く正午過きカムラン[*1]湾に入港す。湾は稍広し。仏軍艦一隻あり。馬公にある軍艦新高奉迎の為めカムランに来り。今朝湾外にて御出迎せり。内地より来りし室戸丸（石炭船）あり。侍従（アキママ）[*2]同船にて内地より来る。両陛下の御言を余に伝ふ。又御菓子を賜わる。故に御礼の電報を出すことをたのめり。

夕食に鹿島の将校を召されたり。

＊1仏領インドシナの港湾。日露戦争当時、露国バルチック艦隊の最後の寄港地となったことでも有名　＊2甘露寺受長

八月二十二日　月曜　晴　午后驟雨　暑し　カムラン滞在

起床、朝食同し。

午前九時半より鹿島に行く。香取は石炭つみ。

午餐、晩餐。后十時に香取に帰る。

鹿島艦長小山大佐より鹿島神社の模型を乗組兵の製作品を紀念に貰ふ。

八月二十三日　火曜　晴　暑気強し　カムラン滞在

起床、朝食前日に同し。

終日軍艦にあり。午后七時三十分晩餐。仏国軍艦オルテール艦長及一少尉並に小栗司令長官以下二十名以上。

八月二十四日　水曜　晴　驟雨あり　暑気強し　カムラン滞在

起床、朝食前日に同し。

本日も又石炭積に付き、午前九時半より小汽械（艇）にて湾内一周して十時に鹿島に行く。皇太子は陸上に行かれ、自動車にて運動。午餐は鹿島にて為し、午后三時頃驟雨来り、雷鳴も共に。四時頃止み、四時皇太子と鹿島を出て香取に帰る。

サイゴン日本領事（アキママ）[*]暇乞に来る。

＊古谷栄一

八月二十五日　木曜　晴　甚た暑し　海上平穏　復航海第三十一日　カムラン出港

午前五時半起床、六時半過き朝食。

午前六時カムラン出港にて、十二哩の速力にて横浜に向ふ。

海上平穏なれとも暑気強し。但し午后一時過より南風となり稍良くなる。但し湿気加わる。

八月二十六日　金曜　晴　甚た暑し　復航海第三十二日

午前六時起床、七時朝食。

今朝は安南沿岸、午后海南嶋を東に去る約五十浬に達す。

伊国皇族アオスタ殿下日本に本年十一月頃来朝と云ふ電報に接す。

新駐日米大使はウオーシンス[*]と云ふ。九月一日東京に向て出発と云ふ。

＊実際には Charles Warren（ウォーレン）

八月二十七日　土曜　晴、曇　海上平穏、雨降り稍涼し　復航海第三十三日

午前五時半起床、同六時半過き朝食。

午前六時過きより雨となり、可なり長く降り、午后三時頃より止み曇。

香港に近接しつゝある故に（午后二時過香港沖）五十浬と云ふ。坪上[*1]総領事より祝電あり。

十一時十七日より総武の野に於て大演習、大本営は横浜と云ふ。ジョッフル元帥の渡日は年末迄延期と云ふ。[*2]

所沢、長春間の長距離飛行計画。

時計一時間進ませる。

＊1坪上貞二　＊2ジョッフル元帥の来日は、実際には翌大正十一年一月

八月二十八日　日曜　曇　驟雨　海上平穏　復航海第三十四日

午前五時半起床、六時半過き朝食。

午前中は時々驟雨来しも、午后は曇少々日光を見る。昨夕馬公より南下せる軍艦利根は午前九時稍前本艦隊に近接し来り、皇太子旗に対し登舷礼式と万歳を三唱して、少時間続行して馬公に向て帰れり。今朝五時頃仙頭沖、午后三時頃膨湖島附近に達すと云ふ。昨年十月一日国勢調査の結果五五九六万三〇五三人と公定さる。

東京地方は珍らしき強風。全く秋らしい。二百十日は無事と云ふ。芝浦打上の花火は長野県の名物「二尺玉」鋼鉄製煙火筒。大阪毎日新聞社より皇太子外遊写真状（ママ）を利根にたくして献上せり。

八月二十九日　月曜　驟雨あり　午后晴　波高く東南風あり　復航海第三十五日

午前五時半起床、同六時半過朝食。

今早朝台湾海峡を通過すと、九州南岸に向ふと云ふ。

海上波あり。皇太子夕食は艦橋上にてあり。故に余は室内にて食事を為す。

八月三十日　火曜　快晴　海上平穏となる、風あり稍涼し　復航海第三十六日　今夕五時頃内地の島を見る

午前五時半起床、同六時半過き朝食。

今朝に至り海上平穏となる。

船橋来電、南印度擾乱重大、南印度ニランバ宮殿焼払、[*1]チタ政府代表者大連[*2]行、会議ならん。

東宮奉迎の為め帝国ホテル一大盛宴あらんと。

館山の東宮奉迎熱烈ならんと。

明日は都井崎附近に於て第一艦隊奉迎するならん。明日午前十時頃種子島東側を北上。都井崎東南三十哩。

今夕始めて五時内地の島。左舷に横当島、右舷に奄美大島。東宮殿下に御注

意を申上く。又欧州御旅行中の記事を上る。

＊1八月二十九日付の大阪朝日新聞には「印度の叛徒百万」と題し、マラバール地方モクラー族が叛乱を起し、暴徒がニランバ宮殿を焼き払ったことなどが記される　＊2ソビエト政権がシベリアに一時的に建設した国家。極東共和国

八月三十一日　水曜　快晴　海上平穏、風なく暑し　復航海第三十七日

午前五時半起床、同六時半過き朝食。

栃内[*1]大将の率ゆる聯合艦隊は有明湾より今早朝出発して午前十時十五分に御召艦の側を（但し逆に）通過す。皇礼砲ありしも遠き為め砲声聞えず。栃内大将坐乗扶桑、第二艦隊司令長官鈴木[*2]中将、金剛、霧島、第三、第四戦隊。全艦八隻（長門[*3]は夜間演習のとき水雷がプロペラに当りて修理と云ふ）、別に龍田の率ゆる第一水雷戦隊、北上の率ゆる第二水雷戦隊後尾に来る。合計三十余隻。但し通過后直に進路を豊後水道にとりて帰れり。あまり少時間なりし為めあつけなかりし。原総理より祝電。

天長節に付き午前十一時半皇太子に御祝申上げ正午御会食ありたり。田中[*4]大将軍事参議官に任せらる。

＊1栃内曽次郎（聯合艦隊司令長官）　＊2鈴木貫太郎　＊3聯合艦隊旗艦　＊4田中義一

九月一日　木曜　晴　海上平穏　復航海第三十八日

午前五時半起床、同六時半過き朝食。

今朝潮崎を午前六時頃通過。速力はやき為八ノットに減ずるも潮の為め夫れ以上に進むと云ふ。時間ある為め艦隊は伊勢湾近くに進みて遙拝式を為す（午后一時）。皇太子より余に御紋附花瓶と御写真を賜わる。但し目録のみ。又供奉員一同へ腕ボタンと銀製箱を紀念として下さる。平田も腕ボタンと金五十円。

午后八時過き左舷に御前崎の灯台火を見る。

東京発神戸行急行三十一日午前…（ママ）に貨物車と衝突して死傷十六名、山東問題と帝国の誠意、過激派浦塩に迫る、ヤップ島問題。

九月二日　金曜　晴但し霧あり　海上平穏　風なく暑し　復航海第三十九日　館山仮泊

午前五時半起床、同六時半朝食。

午前八時館山湾に入る。但し今朝来霧深く遠方を見ること能わず。午前六時半頃より駆逐艦四隻来り奉迎す。山城は同湾にありて奉迎す。千葉県知事折[*1]原来る、郡長と共に。十一時頃駆逐艦浦風にて浜尾[*2]大夫、犬塚[*3]武官、杉[*4]宮内書記官等来る。午后は中、小学生の水泳を見る。夕食は後甲板にて立食。艦隊の将校全部と供奉員全部。其后小汽械（艇）にて海岸にある人民の提灯行列を皇太子と見に行く。

＊1折原巳一郎　＊2浜尾新　＊3犬塚太郎（東宮武官・海軍大佐）　＊4杉琢磨

九月三日　土曜　晴　海上平穏　横浜港着　東京入

午前五時半起床、同六時半朝食。

艦隊は午前六時館山湾出港。途中四駆逐艦左右にあり、山城後方より進む。小栗長官旗艦を香取に移し、故に鹿島も直后にあり。観音崎附近より人民、学校生徒等海岸に整列す。

午前九時横浜港内に投錨す。港外には横須賀所轄の艦隊あり、潜水艦、飛行機等迄あり、甚た盛なり。両陛下御使、両王子（皇）、各殿下、総理以下約百五十名香取に来る。十時過き皇太子御退艦、余以下随行す。桟橋には学校生徒、英ボイスコート（ボーイスカウト）、横浜官民数多あり。汽車沿道官民、生徒多し。十一時過き東京駅着。伏見宮、各内親王、大公使、大官数多あり。駅より御殿迄、左右

には軍隊、各学校生徒、其后に人民ありて、歓迎甚た盛なり。万歳をさけぶ者甚た多くなりたり。又人民、生徒等も写真をとる者甚た増加せり。正午御殿に御着。門内には学習院生徒、御玄関には女官、其他職員ありたり。御陪食あり、其后帰る。余の門内には商人あり、玄関には安藤・黒田夫婦。恭子は妊娠。三条ちよ子、跳見[*1]、小山田、浮田等。阿部校長[*2]あり。又各宮来らる。立食。長崎来る。後藤男市長[*3]来り、来る八日市歓迎会に出席を願ふ。

［欄外］総計百八十五日。但陸地七十日、海上百十五日。

＊1跡見花蹊（跡見女学校創設者）　＊2阿部宗孝（小田原中学校長）　＊3後藤新平（東京市長）

九月四日　日曜　晴稍曇　北風あり　天候変化せんとす

午前五時半起床、六時半朝食。

午前九時に賢所に参拝の為め正装にて出る。

皇太子殿下は日光へ行啓ある。

九月五日　月曜　雨　日光行

午前四時半起床、五時半朝食。

午前七時上野発にて日光へ行き、両陛下の御機嫌伺を為す。正午御会食あり（陛下[*]のみ）。午后一時二十分日光発にて帰京す。此日供奉員一同も伺候す。

＊天皇

九月六日　火曜　雨時々降る

五時半起床、六時半朝食。

午前、松川[*]大将を招き春仁に付き談話を聞く。

九時過きより各宮家へ廻る。皇子御殿に行く。淳宮は昨夕学校に御帰り。高松宮のみに拝謁す。

＊松川敏胤

九月七日　水曜　雨時々降る

五時半起床、六時半朝食。

七時半より散髪す。

九時半宮内大臣牧野[*1]来り面会す。皇太子殿下の件に付き。又宮中に於てあまり善良ならざる［以下未記入］

午后松方[*2]侯来り面会す。

午后六時半、陸軍大臣山梨[*3]中将の招きにつき出席す。

村上[*4]秘書官、山県[*5]元帥の使に来り面会す。

＊1牧野伸顕　＊2松方正義　＊3山梨半造　＊4村上恭一（枢密院書記官）　＊5山県有朋

九月八日　木曜　昨夜来雨大に降る　午前八時頃より止む　晴

五時半起床、同六時半朝食。

本日は東京市の皇太子殿下御帰朝奉祝会日比谷にあり、市長より招かれ出席す。昨夕来の雨も今朝八時半頃より止み、稍風ありしも皇太子御出席の為め好都合なりし。其後余は明治神宮に参拝す。

午后四時に東京市青年団奉祝会に皇太子御臨席、余も出席す。全国の代表青年団も参列せり。総人員甚多かりし。

九月九日　金曜　曇　稍涼し

同時起床、朝食。

西園寺[*]公を呼び、皇太子に付き談話せり。

梨本宮来り面会す。

午后浜尾大夫来り面会す。

午后七時三十分東京駅発にて京都へ行く。

＊西園寺公望

九月十日　土曜　曇　京都着　長楽館

午前七時二十分京都駅着。

午前九時より桃山[*1]両御陵、泉山[*2]両御陵に参拝す。賀陽宮へ行く。月峰尼、賀陽大妃来る。

久邇宮、廬山寺、相国寺、伏見家墓所、興正寺、村雲瑞龍寺へ行く。

午后八時五十二分発にて帰京。

＊1明治天皇陵・昭憲皇太后陵　＊2孝明天皇陵・英照皇太后陵

九月十一日　日曜　曇

午前八時二十分東京駅着帰京す。

九月十二日　月曜　小雨

午前五時半起床、同六時半朝食。

本日より寛子、華子学校始まり通学す。

大島[*1]少将新騎兵監来り、特別騎兵演習の件を報告す（来月十日より）。

平山[*2]赤十字社長を呼ひ、和蘭赤十字社よりの余に記章の件話す。

午后梨本宮妃来り面会す。

＊1大島又彦　＊2平山成信

九月十三日　火曜　曇小雨

起床、朝食同し。

午后二時過きより伏見宮へ行き、東宮殿下の件に付き談話す。夕食は富士見軒に於ける騎兵会に行く。福田[*1]大佐と飯田[*2]少佐の（伊国騎兵の談）講話ありたり。

＊1福田義弥　＊2飯田貞固

九月十四日　水曜　雨

起床、朝食同し。

午后三時に宇佐美[*]東京府知事来り、博覧会の件に付き種々申し来りたり。

＊宇佐美勝夫

九月十五日　木曜　小雨、曇

起床、朝食同し。

午前八時半山本[*1]大佐呼ひ、東宮殿下の御談話の件（今夕）。徳川[*2]公来り面会す。来月十一、十二の内華族会館にて晩餐の件。

宮内次官関谷[*3]来り面会す。

午后六時半赤坂離宮に於て東宮殿下の御帰朝に付き晩餐会に出席す。各国大公使あり。九時過き帰る。

＊1山本信次郎　＊2徳川家達　＊3関屋貞三郎

九月十六日　金曜　曇、快晴となる

起床、朝食同し。

三条治子様を呼ひ午餐を共にす。

午后六時半赤坂離宮に於て昨夕のつづきの晩餐会に列す。但し日本人のみ。

午后八時半過き帰る。

九月十七日　土曜　快晴

起床、朝食同し。

尾野[*1]中将来り、賀陽宮の件に付き談話あり。宇垣[*2]中将を呼び面会す。

正午東宮御所に元老御召午餐あり、余も列席す。山県元帥、松方公、西園寺公、大隈（不参）。

午后春仁小田原へ行く。寛子、華子、護国寺（アキママ）子の墓所に参拝す。
午后三時過、余は智恵子、寛子、華子と庭内運動。学習院あとにも行く。
＊1尾野実信　＊2宇垣一成

九月十八日　日曜　曇　午后より雨
起床、朝食同し。
午后五時より紅葉館へ第三艦隊小栗中将以下将校全部約九十四名を招き宴会。*
余は七時半過き帰る。
春仁小田原より午后七時半過き帰る。
＊小栗孝三郎

九月十九日　月曜　暴風雨のきみ
起床、朝食同し。
正午、宮中御陪食。東宮御帰朝の為めなり。
余の写真を森岡中将（第十二師団長）、香取艦長漢那大佐に贈る（二枚）。*1 *2
午后山梨陸軍大臣来り、談話を聞く。
＊1森岡守成　＊2漢那憲和

九月二十日　火曜　晴　但し南風　蒸暑し
起床、朝食同し。
正午、伏見邸に於ける東宮御招の食事に余も列す。午后二時半、山県元帥を招き、皇太子の件に付き談話せり。

九月二十一日　水曜　晴
起床、朝食同し。
余の写真を供奉員に贈る。珍田、三浦、入江、奈良、西園寺、山本、及川、浜田、沢田、土屋、戸田、八田、二荒。

両陛下本日日光より還御、午前十一時十五分上野御着に付き、余のみ行く。
午后三時、原内閣総理大臣来り面会し、東宮殿下御巡遊の件に付き談話せり。
大谷嘉兵衛*来り、余の帰朝に付き菊花唐草花瓶一基を貰ふ。
午后六時、赤十字社本社に於て帰京に付き晩餐会あり、出席す。
＊横浜の実業家

九月二十二日　木曜　晴
起床、朝食同し。
午前九時、松川大将来り、春仁の件に付き話。
同十時、北白川宮来り面会す。欧州行の件。
同十一時参内、両陛下に拝謁す。

九月二十三日　金曜　雨終日
起床、朝食同し。
秋季皇霊祭に付き、賢所に余のみ参拝す。帰りて社に智恵子、春仁、寛子と参拝す。華子は少々風気。
午后七時、帝国ホテルに於て後藤市長市民を代表して歓迎会を催す。余も出席す。礼装。九時過き帰る。出席者約八十名なり。市会議員約六十名以上と供奉員全部なり。

九月二十四日　土曜　雨　午后より止む
起床、朝食同し。
午前十時に陛下より菊花章頸飾を拝受す。同時に勅語を賜わる。
皇太子裕仁欧洲各国ヲ巡游スルニ当リ卿其輔佐ニ任シ能ク其君民ト交歓シ見学ノ目的ヲ達セシメ且国交上益親密ヲ加エタルハ卿カ其力ヲ尽シタルニ由ルモノ多シ朕深ク其労ヲ嘉ス

同時に両陛下より御紋散料紙文庫硯箱壱組と金五万円を拝領す。皇后陛下に御礼申上く。
正午、東宮御所に於て各皇族同妃を招かれ御会食あり、出席す。
春仁、午前早く小田原に行く。
華子学校休。

九月二十五日　日曜　雨　夜中暴風雨

起床、朝食同し。
終日雨なり。
春仁午后七時半頃帰る。余より兵科を定めることに付き、色々と春仁に申せり。

九月二十六日　月曜　今朝六時過より雨止み風のみなりしも十時過きより晴

起床、朝食同し。
余は終日内にあり。松川大将より春仁に兵科に付き談話の結果、余よりして春仁に騎兵になることを申す。是れにて決定せり。
華子学校行。

九月二十七日　火曜　晴

起床、朝食同し。
午后零時五十分、宮中に於て露国大使クルペンスキー帰国の為め御陪食あり、余も参列す。
午后二時より皇后陛下に東宮殿下の御渡欧中の件並に同殿下のことに付き、一時間半御話申上く。其時御重の手函に御菓子を拝領す。

九月二十八日　水曜　小雨

起床、朝食同し。
田内別当昨日の御礼に御内儀へ遣したり。福田を伏見宮邸へ御礼に遣す。
正午、松方、西園寺元老、牧野宮内大臣以下を呼ひ午餐を為す。二十一名なり。食后大臣より陛下の御容体書の件に付き談話あり。
午后四時に各新聞通信社代表者十五名来り、帰朝に付き賀辞を申す。余より一言申し、茶菓を与へたり。彼等は写真をとれり。

九月二十九日　木曜　曇　小田原行

午前四時半起床、六時半朝食。
午前七時五十五分発にて両人小田原行。欧洲より帰朝后始めてなる故に町長以下四、五十名小田原駅に余を迎へたり。松井も一列車前に行く。

九月三十日　金曜　昨夜より雨　小田原滞在

起床五時半、朝食七時。
午后より雨止み曇天なり。
北村来り、十月十八日上野にて博覧会上棟式に台臨の件申来る。
＊北村耕造（宮内技師）

十月一日　土曜　朝晴　午后曇　小田原滞在

起床、朝食同し。
春仁午后二時過き東京より来り、寛子、華子午后三時十五分小田原着。
午前中大島大将[*1]と関海軍機関少将[*2]来る。
＊1大島義昌　＊2関重光（海軍機関大佐、第三艦隊機関長）

十月二日　日曜　曇　夕刻より小雨　小田原滞在

朝食、起床は同時刻なり。
山梨陸軍大臣午后一時過き来り、東宮の近衛師団司令部附の件、海軍大臣代

理の件を話す。
春仁、寛子、華子、午后四時五十五分小田原発にて帰京す。

十月三日　月曜　終日小雨　小田原滞在
起床、朝食同し。
東京より電話にて、東宮殿下より智恵子へ香茶道具、春仁へ腕時計、寛、華へ化粧道具を拝領す。

十月四日　火曜　曇后雨　小田原滞在
起床、朝食同し。
午前十時二十分より宮内省自動車にて宮ノ下に行き、皇太子殿下の御機嫌伺に参殿す。御会食あり。后、伊国御滞在中の活動写真を拝見す。午后二時退出、三時稍前帰る。

十月五日　水曜　晴　曇　小雨　小田原滞在
起床、朝食同し。
今日は東京赤坂離宮にて東宮殿下軍艦内の活動写真ありしも、子供学校の都合にて行かず。

小田原別邸浩養閣前の載仁親王

十月六日　木曜　曇　小雨　小田原より帰京
起床、朝食同し。
午前に川添輜重兵中佐来り面会す。
午后四時五十五分小田原発にて両人帰京す。

十月七日　金曜　曇
起床、朝食同し。
正午宮中に於て児島*中将（元サガレン州軍司令官）其他へ午餐下賜に付き出席す。
本日宮内省に大異動ありたり。
*児島惣次郎

十月八日　土曜　雨終日
起床、朝食同し。
午后二時より芝離宮に於て、皇太子殿下御外遊に付き山本海軍大佐の講話あり（伏見宮催）。余、春仁、寛子、華子行く。智恵子は不参す。春仁は午后五時過き汽車にて小田原へ行く。

十月九日　日曜　雨終日
起床、朝食同し。
特筆すべき件なし。
春仁午后八時半頃小田原より帰る。
福田佐賀より帰る。

十月十日　月曜　晴
起床、朝食同し。
特筆すべき件なし。

十月十一日　火曜　曇の晴

起床五時半、朝食六時半。

正午宮中に於て米国ワシントンに行く加藤海軍大臣と公爵徳川家達及其他へ午餐下賜に出席す。

午后六時より華族会館に於て、余始め供奉員の為め晩餐会あり、出席す。

十月十二日　曇　高崎行

午前四時半起床、同五時四十五分朝食。

午前七時二十分上野発にて特別騎兵演習実視の為め高崎に下車し、自動車にて前橋入口の橋梁附近に行き、北軍の退却を見る。

再ひ自動車にて高崎貯水池なる高地に行く。時に午后四時過なり。夫れより宿に帰る。小沢と申し、師団長のとき泊りたる家なり。

昨年春仁妙義山に上りたるとき泊りたる旅館の主人（養気館菱屋伝平）来り、真綿と羊羹を貰ふ。

十月十三日　木曜　小雨后曇　高崎午后出発帰京す

午前三時起床、四時朝食。

午前四時四十五分より自動車にて高崎の貯水池に行き、其附近にて演習を見る。小雨始まり、午前八時演習を終り、歩兵第十五聯隊集会場に行き、閲兵の始まるを待つ。午前十一時稍前に閲兵を終り、十二時過きより講評あり。

午后一時四十分より公会堂に於て宴会あり、出席す。余は午后二時八分発にて帰京す。

十月十四日　金曜　晴時々曇

起床、朝食同時刻なり。

午前十時より鉄道五十年紀念祝賀会に皇太子御名代として臨御あり。余も出席す。

十月十五日　土曜　快晴

起床、朝食同し。

午前十時より三十分をきに露大使（出発）、白国大使、米国大使に面会す。答問に行く。

午后一時十五分より戸山学校に行き、新兵器を見る。山県元帥、長谷川、川村元帥も来れり。[*1] [*2]

午后六時、地学協会の晩餐会に出席す。

本日の官報にて春仁の近衛騎兵聯隊附の発表ありたり。

＊1長谷川好道　＊2川村景明

十月十六日　日曜　快晴

起床、朝食同し。

午前七時五十分より、春仁、寛子、華子と共に鉄道展覧会を見に行く。二時間かかる。

正午に三条治子様始め親族を招き、食事を為す（帰朝の為め）。食后東宮御所の活動写真器を拝借して、東宮御渡欧中の写真を見る。

春仁夕刻より小田原へ行く。

十月十七日　月曜　快晴

起床、朝食同し。

午前、賢所に行く前に写真師（アキママ）を呼ひ、余は写真を正装にて写す。華子も同し。

午前九時半より賢所に行く。

寛子、華子、豊島岡へ参拝に行く。

午后は庭内運動を為す。
石井大使[*1]より自動車カタローグ[*2]を一昨日（十五日）送り出せりと云ふ電報、今朝来る。

＊1石井菊次郎（駐仏大使）　＊2catalogue（仏）

十月十八日　火曜　快晴

起床、朝食常の如し。
午前十時に独新任の大使に余のみ面会す。
同十時半より独大使館に答問に行き、夫れより十一時に施行する上野に於ける上棟式[*1]に行く。式后美術院別館に於て各大臣、各大公使等と食事を為し、午后二時頃帰る。
午后二時半過きより、服部騎兵大佐[*2]より特殊演習並に特別大演習の計画を聞く。
大島騎兵監、午前九時頃に来り面会す。

＊1平和博覧会の上棟式（親王は同博覧会の総裁）　＊2服部真彦（参謀本部演習課長）

十月十九日　水曜　晴

起床、朝食同時刻なり。
午前十時より智利公使、同半に伯剌西爾公使、同十一時チエック・スロバック公使、十一時半ポーランド公使、十一時四十五分メキシコ公使に面会す。
午后二時、東宮御所に参殿して特別騎兵演習の経過を申上る。

十月二十日　木曜　晴　午后より曇　小雨あり　夕刻より雨大に降る

起床、朝食同刻なり。
午前七時四十分より、御茶ノ水博物館内に於ける印刷文化展覧会へ余、寛子、華子と行く。北白川宮二姫宮と来り、共に見る。東宮殿下御渡欧中の各所よりの上げたる書類もあり。十時稍前に帰る。
小坂近衛騎兵聯隊長[*]来り、春仁と共に面会。
午后六時黒田家の招により両人行く。晩餐后、筑前琵琶演奏者原野富次郎、名馬漣（小倉師団の将校愛馬訣別）、川中島。講談大嶋伯鶴、堀部安兵衛（二席物）。午后十時頃帰る。

＊小坂平

十月二十一日　金曜　雨

起床、朝食同し。
特記すべきことなし。

十月二十二日　土曜　曇　夕刻より小雨

起床、朝食同し。
午前に宮内大臣来り面会す。陛下の御幼少のときよりの御容体書を持ち来る。
午后五時より華族会館に於て日仏協会総会、六時より余の帰朝の為め晩餐会あり出席す。

十月二十三日　日曜　曇　小田原行

午前四時半起床、朝食は汽車中。
午前七時十分発にて小田原へ両人、寛子、華子行く。
春仁、寛子、華子は午后四時五十五分小田原発にて帰京す。

十月二十四日　月曜　曇　午后より小雨　小田原滞在

午前六時起床、七時半朝食。
特筆すべき件なし。

十月二十五日　火曜　晴　午后より曇　小田原滞在

起床、朝食同し。

特筆すべき件なし。

十月二十六日　水曜　終日雨　但し時々止む　小田原より帰京

起床、朝食同し。

午后四時五十五分発にて両人帰京す。

十月二十七日　木曜　晴

起床五時半、朝食六時半。

午前十時半より伏見宮邸に行き、陛下の件。

午后二時三十分に日本赤十字社病院三十五年記念式の為め、両人にて同病院へ行く。

安藤家にて今朝男子生る。

十月二十八日　金曜　晴稍曇

起床、朝食同し。

午后五時に大崎の三条治子様へ招かれ、両人、松井マス、吉田栄子と行く。九時過ぎ帰る。

十月二十九日　土曜　晴

午前五時半起床、同六時半朝食。

午前十一時五十分東京発にて、横浜根岸の競馬場へ御沙汰により出席す。午后三時過きの汽車にて帰京す。

午后七時過きより雷鳴始まり、八時過き雨大に降り、雷鳴強し。九時頃止む。

十月三十日　日曜　晴

起床、朝食同時刻なり。

終日内にあり。午前に蜂須賀侯[*1]来り、来る四日午后七時日本倶楽部に於て剣[*2]橋、牛津大学出身者より東宮殿下を御招き申上けるに付き、余にも出席を申来れり。

午前十一時過きより、黒田茂子、小供二人、安藤家の女子供一人を呼ひ、午餐す。夕刻帰る。

安藤家の生れたる男子を信暉（ノブテル）と名をつける。

＊1蜂須賀正韶　＊2ケンブリッジ、オックスフォード両大学

十月三十一日　月曜　晴

起床、朝食同時刻なり。

代々木練兵場に於て観兵式[*]あり、皇太子御出席。御名代としてあり。午前八時宮城御出門、同九時稍前より始まり、十時に終る。余も出席す。乗馬は大礼号に始めて乗る。一度家に帰り、再ひ十一時半より宮中の午餐に出席して、午后一時稍前に帰る。

＊天長節観兵式

十一月一日　火曜　晴

起床、朝食、同時なり。

特筆すべき件なし。

夕刻八時頃雷鳴あり、雨降る。

十一月二日　水曜　晴

起床、朝食同し。

午前に松川大将を呼ひ春仁の近衛騎兵聯附（ママ）に件を話し、文教訓化篇と風尚民俗篇を大将にをくる。

午后近衛騎兵聯隊第一中隊長佐竹大尉[*1]と名波[*2]中尉来り、見会す。

午后五時三十分鳥居坂三条家へ余のみ晩餐に行く。智恵子は断り、治子様も

腹痛とて断りたり。
英皇太子の為め西園寺、[*3]渡辺[*4]以下四名小田原別邸に行く。
秋元[*5]鉄道大臣秘書官、伊東[*6]事務官、菊地[*7]内匠寮技師、三浦[*8]内匠寮技手。

＊1佐竹倜一郎　＊2名波敏郎　＊3西園寺八郎（式部次長）　＊4渡辺直建（式部官）　＊5秋元春朝　＊6伊東太郎（宮内事務官）　＊7菊地白　＊8三浦二郎

十一月三日　木曜　晴

起床、朝食同し。
今日は明治神宮一周年祭に付き、午后二時同神宮へ参拝す。

十一月四日　金曜　晴

起床、朝食、五時、六時なり。
女子学習院高尾山へ遠足の為め午前七時半新宿発、午后五時過き帰る。両人行。
午后七時東京倶楽部にケンブリッチ、ヨックスホード出身者より皇太子を晩餐に御招き申す。余も出席す。午后九時過き帰る。
午后九時半過きに宮内省より電話にて、今夕東京駅にて兇漢の為め原[*1]総理胸部をつかれ重態と申すこと。豊島[*2]を同邸に見舞として出せり。

＊1この日午後七時二十五分頃、原敬首相は東京駅において十九歳の少年、中岡艮一により刺殺された　＊2豊島鉄太郎（閑院宮職員）

十一月五日　土曜　晴

起床、朝食同し。
午前九時より原総理邸に行き吊問す。
帰途参内して両陛下の御機嫌伺を為す。
午后一時東京駅発にて余は寛子、華子と小田原へ行く。智恵子は神経痛の為め東京に残る。
春仁は今朝より二宮、秦野方面へ行く。夕刻小田原に帰る。
原総理薨去の発表今朝ありたり。
余及寛、華は浩養閣の一室に寝る。

十一月六日　日曜　晴　小田原滞在

起床六時、朝食七時半。
春仁、寛子、華子、午后四時五十五分発にて帰京す。

十一月七日　月曜　晴　小田原滞在

起床六時、朝食七時半。
清棲[*]伯午前十一時半頃来り午餐を共にす。午后三時三十五分小田原発にて東京に帰る。

＊清棲家教（載仁親王の兄）

十一月八日　火曜　晴但夜中より西南風始まり稍強　小田原より帰京

起床六時、朝食七時半。
特筆すべき件なし。
午后四時五十五分発にて帰京す。
東京も風大にありと云ふ。

十一月九日　水曜　晴

起床五時半、朝食六時半。
午前十一時にルーマニ新任公使に面会す。
正午霞ヶ関離宮に於て北白川[*]宮の為め各宮合同にて送別の宴を開く。余のみ出席す。各宮合同にて時計と金五千疋を北白川宮へ贈る。

＊北白川成久王は二十八日欧洲に向け出発

十一月十日　木曜　晴

起床、朝食、同時刻なり。

本日は余の誕生日なれとも食事は十二日に。但し赤飯のみ分配す。

女子学習院にて華子の学年の運動会ありたり。

十一月十一日　金曜　晴

起床、朝食、同時刻なり。

午前に山階宮の家にて故尉(ママ)子殿下の二十年祭に付御霊前祭に参拝す。*

午后三時、東宮殿下に拝謁に行く。

盛岡にて故原総理の葬式ありたり。

＊故菊麿王妃範子（明治三十四年十一月一日薨去）

十一月十二日　土曜　晴

起床、朝食同し。

十一月十三日　日曜　晴

起床、朝食。

特筆すべき件なし。

十一月十四日　月曜　晴、曇　御殿場行

起床、朝食、同時刻なり。

午前八時三十五分東京駅発にて特種演習見学の為め行く。正午過き御殿場着。直に自動車にて板妻廠舎に行き東宮殿下の御機嫌伺。東宮殿下少々御風気なり。乗馬にて板妻南方十四号測点に行き、両軍の行動を見るも、能く見えざりし。

樺山伯別邸に一泊す。*

＊樺山資紀

十一月十五日　火曜　晴　御殿場より帰京

午前四時十五分起床、五時稍前に朝食。

五時四十分より自動車にて板妻南方の両軍の昨日来の攻防演習を見に行く。十四号測点に於て午前七時過きより戦闘始まりて、八時過き終る。一度宿に帰り再ひ十時半より講評の為め板妻廠舎に行き、正午東宮殿下と共に帰京。直に観菊会に参列の為め自動車にて行き、五時頃帰る。

十一月十六日　水曜　晴　大演習の為横浜へ出張　原富太郎邸泊

起床朝食、同時刻なり。

午后二時五分、東京駅発にて大本営地なる横浜に行く。原富太郎邸に泊る。

皇太子殿下は午后三時横浜御着に付き、同駅にて御向(ママ)ひ申上げ大本営に御機嫌伺に行く。

十一月十七日　木曜　晴　第一日

起床六時、朝食六時半。

午前八時より原邸の有名なる庭園を見る。*

午前九時旅館出発、同九時三十分横浜駅発にて日野駅着。日野御野立場に行く。統監部列車なり。演習第一日なり。西軍第十四師団対近衛、第一両師団、又酒匂川方面西軍第三、第十三と東軍騎兵第一集団。午后三時過き自動車にて八王子に行き午后四時二十分宮廷列車にて午后五時四十分着、六時過帰る。

＊三溪園

十一月十八日　金曜　晴　南西の風強　第二日

午前四時起床、四時半朝食。

午前五時三十分自動車にて藤沢南方汐留海岸に行き、西軍上陸部隊の動作を見る予定なりしも、今朝来風波大にあり上陸軍困難なりし為め中止となる。

遠く艦隊を見るのみ。一時間の自動車、午前八時十五分汐留発にて下糟屋御野立場着。九時三十分頃なり。風大にあり、為めに社殿内に入る。西軍第三、第十三師と東軍近衛、第一両師団の戦闘を見る。午后二時半過き同所発、午后五時過き帰る。約二時間自動車。

十一月十九日　土曜　晴　第三日

起床五時半、六時半朝食。

午前七時半より自動車にて長津田に行き、両軍の後衛戦と追撃戦を見る。

午前十時三十分頃より自動車にて、川和を経て東海道に出て、玉川の右岸を通過して玉川御野立場なる田*総督の邸に午后零時三十分頃着す。午后二時より自動車にて代々木練兵場に行き、飛行器其他の兵器を見て午后四時頃帰る。

＊田健治郎（台湾総督）

十一月二十日　日曜　晴　第四日

午前四時起床、同四時半朝食。

午前五時半より自動車にて田邸に行き、最后の決戦を見る。午前七時より始まり八時半終る。戦線巡視、皇太子の御供して約一時間半。深沢園芸学校御講評場に行き、午后二時半講評及令旨あり。午后四時過き帰る。

大演習終る。

十一月二十一日　月曜　曇天　午后二時頃より雨となる

起床五時半、朝食六時半。

大演習の為め観兵式、代々木練兵場。午前九時三十分、皇太子御着。同五十分より閲兵始まり正午に終る。今回は五個師団と騎兵第一、第二旅団、野砲第一旅団、重砲二聯隊、独立重砲二大隊等にて約五万人と云ふ。午后二時半より新宿御苑にて賜*1餐に列席す。其頃より雨となる。招されたる者約七千名と云ふ。午后七時に香港の軍司令官パトリック中将、其副官、大使附武官等を晩餐に呼ひたり。日本武官は秋*2山大将以下約七名なり。

宮内大臣、午后来り面会す。

賜餐場より伏見宮邸に各皇族集り、来る廿五日の会議の件に付き申合を為す。

＊1観菊会　＊2秋山好古（陸軍大将）

十一月二十二日　火曜　晴

起床、朝食、同時刻なり。

午前十時参内、両陛下に拝謁す。陛下よりベコニヤ一鉢を拝領す。

午后三時に東宮御所に参殿して拝謁す。

夕刻田内別当より来る廿五日の皇族会議の書類を受取る。

十一月二十三日　水曜　晴　寒気強くなる

起床、朝食、同時刻なり。

新嘗祭に付き午后五時三十五分より賢所に行き、二十四日午前零時三十分頃帰る。

十一月二十四日　木曜　晴

起床、朝食、同時刻なり。

午前十時過き参内。伏見宮と共に陛下に拝謁して、皇太子の摂政に付き奏問せり。

午后五時半より北白川宮の御招により余のみ行き、八時過き帰る。

十一月二十五日　金曜　晴　皇太子殿下摂政

起床、朝食、同時刻なり。

午前十時二十分より参内、皇*族会議に参列す。約二十分間にて午前十一時より開始して終る。正午東宮御始め皇族一同午餐あり。午后一時より開始の枢

密院会議を待ち、午后二時摂政皇太子に拝謁し、侍従長並に皇后大夫に天機伺、御機嫌伺を申して帰る。
午后二時半詔勅出る。
＊議題は「皇室典範第十九条第二項適用方ノ件」、すなわち摂政設置に関する件

十一月二十六日　土曜　晴
起床、朝食、同時刻なり。
午前九時半より賢所。摂政奉告祭に参列す。
午后一時半宮中に於て摂政殿下に拝謁あり。
午后三時福田中将*を呼ひ、台湾の情況を聞く。
＊福田雅太郎（台湾軍司令官・陸軍中将）

十一月二十七日　日曜　晴　小田原行
午前五時起床、六時朝食。
午前七時十分発にて余は小田原へ行く。
午后四時五十五分小田原発にて帰京。

十一月二十八日　月曜　晴稍曇
起床、朝食、五時半と六時半なり。
陸軍大学校卒業式に行き摂政殿下行啓あり。余も参列す。正午参謀本部にて午餐あり、出席す。
午后五時半、北白川宮欧州へ出発に付き東京駅へ送り行く。

十一月二十九日　火曜［記事なし］

十一月三十日　水曜［記事なし］

十二月一日　木曜　晴　名古屋へ出発す
午前九時半の特急にて出発。将官演習旅行実視の為め午后四時四十一分名古屋着。富田重助方に泊る。
梨本宮も同列車にて出発す。
春仁は本日午前九時に近衛騎兵聯隊へ入隊に付き、自動車にて松井、桜井大尉供す。
本日書面を以て仏大使（石井）にあて自動車を巴里のデビス会社に注文す（米国便）。一月十日頃着の予定ならん。
三月末日には東京に着と思ふ。

十二月二日　金曜　晴　西風強し　滞在
終日講堂にて。午后三時過き帰る。
余は昨日来少々風気。

十二月三日　土曜　晴　風なし　滞在
午前中は前日の如く講堂。
午后は陸軍飛行機製造場並に三菱の海軍飛行機製作場を見に行く。

十二月四日　日曜　晴　風なし　滞在
午前より小牧山に行き、終日山上にて現地に付き演習あり。午后三時過き下山、手植を為し、午后四時半過き帰る。
春仁は第一回日曜に付き、内に帰りたりと云ふ。
物産陳列館を見る。

十二月五日　月曜　晴　西風強く小雪を飛ばす　名古屋出発、大垣着
午前九時過き名古屋出発、大垣着。郡役所にて講堂。戸田伯邸*に帰り午食。
午后赤坂附近の地形偵察に行き、再ひ講堂に帰り、午后五時過き戸田伯邸に着したり。

当地は名古屋より稍寒気強し。

＊旧大垣藩主家

十二月六日　火曜　晴稍雲　滞在

午前養老滝見物。

午后大垣西南方の現地に行き、再ひ講堂。五時過き帰る。

佐竹中隊長より福田へ手紙にて、春仁の近況を通報し来る。

風気よろしきも、今午后より稍腹痛。

十二月七日　水曜　晴

午前講堂。其間一時間半ひまありて伯爵の下やしきに行き、おしどりをとりしも不猟なりし。

午后も講堂あり。帰途公園に行き松を手植す。

夕食は梨本宮及小原男*京都より帰京の途大垣に下車し、共に食事を為す。

今朝庭内にて写真をとる。

春仁王（入隊当時）

今日も腹痛なり。

＊小原駛吉（男爵・内匠頭）

十二月八日　木曜　晴　大垣出発、名古屋を経て四日市に転宿

午前八時十二分大垣出発、名古屋着九時二十八分。十時十五分名古屋出発、桑名着十時五十六分。中学校にて講堂あり。食后現地に行き、午后四時四十二分桑名発にて、五時十三分四日市着。小*菅剣之助邸に泊る（将棋の名人と云ふ）。

＊実業家、衆議院議員

十二月九日　金曜　雲　四日市滞在　山田に行き両宮参拝

午前八時十分発にて山田に行き、外宮参拝。夫れより内宮参拝す。二見に行き二見の岩を見物して、二見館にて午餐を為し、午后一時二十分発にて四日市に帰る。

十二月十日　土曜　雨　午后雨止む　滞在

雨の為め現地に行くを中止となり講堂終日。此日上原参謀総長昨夕着に付き、今朝出発前に来り面会す。

十二月十一日　日曜　晴　四日市出発、帰京

午前九時より総評あり。十時半出発にて名古屋より特急に乗り帰京す。

静岡着のとき午后三時二十五分。摂政殿下同時刻御着に付き下車して敬礼す。

午后七時二十分東京着、帰京す。

十二月十二日　月曜　晴

六時起床、七時朝食。

年末賞与として金六百五十円を陸軍省より支給せらる。

光格天皇御例祭なるも不参せり。

十二月十三日　火曜　晴

午前六時起床、七時朝食。

特筆すべき件なきも、福田近衛騎兵聯隊へ行き、春仁の近況を見て来り報告せり。

十二月十四日　水曜　小雨后雲晴半分

午前六時起床、七時朝食。

特筆すべき件なし。

十二月十五日　木曜　晴

起床、朝食は同時刻なり。

特筆すべき件なし。

十二月十六日　金曜　晴稍雲

起床、朝食同し。

太陽面に十数個の黒点を見ると新聞云ふ。

梅津*少佐を呼ひ、独国の近況を聞く。

＊梅津美治郎（陸軍歩兵少佐）

十二月十七日　土曜　雲小雨なり

起床、朝食同時刻なり。

午前十時半に新任の仏大使クローデルに面会す。答礼の為め仏大使館に行く。

午后六時半、華族会館に於て新任仏大使の為め歓迎会（日仏協会催）あり。余も出席す。会員約百名以下集る。大使夫人も出席せり。午后八時半過き帰る。

明日正午に近衛騎兵聯隊の将校全部、近衛師団長、同参謀長、同高級副官、騎兵第一旅団長、同副官を招くところ、聯隊に春仁の中隊に（アキママ）病一名発生せるを以て、同聯隊長より断りを申来りたる故、食事を中止せり。

春仁、夕刻帰る。

十二月十八日　日曜　晴

起床、朝食同時刻なり。

特筆すべき件なし。

十二月十九日　月曜　晴　小田原行

起床、朝食同し。

両陛下葉山へ行幸啓に付き、余のみ東京駅に行く。

午后一時発にて両人、春仁小田原へ行く。

十二月二十日　火曜　晴　小田原滞在

特筆すべき件なし。

十二月二十一日　水曜　晴　午后稍雲　小田原滞在

関海*軍少将来り、英国の雑紙を持来る。

＊関重孝

十二月二十二日　木曜　雲　小田原滞在

春仁、午前十時三十五分発にて帰京のところ、乗後れたる為め其次の汽車にて帰京す。

午后五時過に帰隊せり。

十二月二十三日　金曜　雲　小田原滞在

特筆すべき件なきも平*田、安江、電気の件に付き来り、夕刻帰る。

＊平田輝吉（閑院宮職員）

十二月二十四日　土曜　晴　小田原より帰京

午后二時小田原発にて両人帰京す。

本夕よりただ(ママ)余の付となる。

十二月二十五日　日曜　晴

起床六時、朝食七時。

正午に誕辰の祝の為め食事を為す。三条治子様始めを招きたり。余興には忠孝琵琶浄瑠璃新曲、渡辺省三の旅順開城（乃木将軍ステッセル将軍会見、愛馬寿寄贈の二段）、行宮桜（児島高徳題詩の段）、忠孝琵琶神洲流原口元吉の奉祝新曲蓬莱山、新曲言葉入橘中佐、但敵塁占領前段、帝国万歳迄。

春仁は午前十時頃帰りて午后四時より帰隊す。

十二月二十六日　月曜　晴

起床、朝食、同時刻なり。

本日は帝国議会開院式に摂政殿下行啓あり。勅語代読。余も参列す。先着なり。午前十一時過き式ありたり。

十二月二十七日　火曜　晴　寒気強し　零五、六度

起床、朝食同し。

寛子、華子、午前九時四十五分発にて小田原へ行く。松井のふさ子とよし子も行く。

正午東宮の御招により各皇族午餐に列す。

午后三時半、*金谷少将を呼ぶ。来月始め欧州へ出張するなり。

＊金谷範三

十二月二十八日　水曜　晴稍雲

起床、朝食、同時刻。

特筆すべき件なし。

十二月二十九日　木曜　小雨　午前十一時頃よりはれる

起床、朝食同し。

本日より聯隊は休日に付き、春仁午前十時半帰る。午后四時再ひ聯隊へ帰る。

葉山両陛下へ歳末の為め電報を出す。

十二月三十日　金曜　晴

起床、朝食、同時刻なり。

午前九時五十分より摂政殿下に歳末の為め霞ヶ関御所に行き、皇子御殿にも行きたり。

春仁、午前十時過き聯隊より帰り、午后四時より聯隊に帰る。

寛子、華子小田原より午后四時三十一分東京駅着にて帰京す。

十二月三十一日　土曜　晴

起床、朝食、同時刻なり。

春仁、昨日と同時刻に聯隊より帰り、夕食后八時より聯隊に帰る。

本年も無事に終る。